

幼児に豊かな表現力を養うための音楽指導に関する一考察

—保育者養成校における使用テキストと照合させて—

辻 浩美・田中 麻衣・鹿戸 一 範

A Study on Teaching Methods to Heighten Infants' Musical Expressiveness

— In Collation with Texts used by Training Schools for Kindergarten or Nursery Teachers —

TSUJI Hiromi, TANAKA Mai, SHIKATO Kazunori

キーワード：子どもの歌、音楽的感性、弾き歌い

I. 研究の背景と目的

本論文は、保育者養成校の「表現」の授業の中で、幼稚園や保育所で展開される保育実技の一環として、幼児が自ら音楽表現を楽しむことを目的にした指導試論である。実際、養成校にピアノ初学者が入学するケースは多々見受けられるが、短大の場合、わずか2年の間に保育現場で使える音楽実技を身に付けなければならない。限られた時間の中で、メロディやハーモニーの美しさやリズムを感じ取り、表現する楽しさを子どもたちに伝えるためにはどのように授業展開させたらよいか。本研究では、筆者3人が共同研究した「ピアノ初学者のための使用テキストの実態と動向」(辻・鹿戸・田中 2017)の第2弾として、テキストを効果的に用いて、その実践方法を試みた。

現在、保育者養成校で使われているピアノ初学者のためのテキストは、ピアノ教則本と弾き歌いのテキスト併用使用型、ピアノ教則本の単独使用型、弾き歌いテキストの単独使用型と3つの採択パターンにカテゴライズされる。その際、ピアノ教則本には依然として約6割がバイエル系テキストを使用していることが判明した(辻・鹿戸・田中 2017)。また筆者3人は、保育士・幼稚園教諭採用試験における音楽実技内容を調査し、ピアノ演奏に対して、圧倒的に弾き歌いを課す園が多い

という結果を、本年度の日本音楽教育学会全国大会で発表した。

以上、2つの研究結果に基づき、音楽表現を視野に入れた、ピアノ実技と弾き歌いを並行して学習するためのテキスト使用法について言及する。

本研究では保育現場での使用頻度の高い「子どもの歌」9曲を選び、養成校での採択が多かった「バイエル教則本」と照合させて、両者を並行使用するための指導案を作成した。これにより、現場で要求されることの多い弾き歌い能力と養成校におけるピアノ実技指導とをタイアップさせた効率的な指導が可能になるのではないだろうか。養成校のピアノ指導者は、子どもの豊かな感性や音楽表現を引き出すことのできる保育者を育てる指導が求められている。各曲の指導上のポイントやその他の表現活動への展開についても考察した。

II. 保育現場で歌われる「季節・行事の歌」

園生活の中では、入園式や卒園式、遠足、七夕、運動会、クリスマス会といった行事や、季節に応じて様々な曲が歌われている。弾き歌いの力が採用試験に多く課されるのもこの理由からだろう。

〔表1〕は、幼稚園や保育所の保育現場で歌われる頻度の高い「季節・行事の歌」を4月から順に並置したものである。表の作成は以下の手順で行った。

(1) 辻・鹿戸・田中(2017)の調査で採択園の

多かった「弾き歌い本」上位5位¹—『こどものうた200』『こどものうた100』『続こどものうた200』『幼児のための音楽教育』『簡易伴奏によるこどものうたベストテン』—に所収されている「季節・行事の歌」をリストアップする。

曲目の右の数値は件数を示したものであるが、この数値は原曲に限らず、簡易伴奏なども含んでいる。尚、件数があっても、園で殆ど歌われない曲は除外した。逆に、件数がゼロ（表中では空欄）でも歌われる頻度が高い曲は掲載した。

(2) その中から、所収件数の多い順に並べる。

〔表1〕保育現場で歌われる「季節・行事の歌」

月	行事	季節・行事の歌					
4月		チューリップ	4	犬のおまわりさん	4	春が来た	2
	入園式	めだかの学校	4	あくしゅでこんにちは	3	山のワルツ	2
		お花がわらった	4	やぎさんゆうびん	3	春の小川	1
	交通安全週間	ちょうちょ	4	むすんでひらいて	3	走れ超特急	1
		先生とおともだち	4				
5月		こいのぼり	4	バスごっこ	2	つばめ	1
	こどもの日	こどりのうた	4	さんぽ	2	おたまじゃくし	1
	母の日	あめふりくまのこ	4	せっけんさん	2	ことりだったら	
	遠足	ブンブンブン	4	あひるの行列	1	ゆかいな牧場	
		おかあさん	3	ピクニック	1		
6月		山の音楽家	4	歯をみがきましょう	2	雨ふり	1
	虫歯予防デー	かたつむり	4	ありさんのおはなし	2	ニャニユニョの天気予報	
	父の日	おつかいありさん	3	おへそ	2	にじ	
	時の記念日	大きな古時計	2	かえるのうた	2	すてきなパパ	
		とけいのうた	2	あまだれぼったん	1		
7月		たなばたさま	4	アイスクリームのうた	3	トマト	2
	七夕	しゃぼんだま	4	水あそび	3	せみ	1
	プール開き	うみ	4	キラキラ星	3	たこ	1
	終業式	おぼけなんてないさ	3	手のひらを太陽に	2	やどかりぼうや	
		アイアイ	3	南の島のハメハメハ大王	2	海の底には青いうち	
8月	花火大会	とんでったバナナ	3	キャンプだホイ	1	ツッピンとびうお	
	夏休み	ヤッホッホ夏休み	1	バナナのおやこ			
		花火	1	たのしい夏休み			
9月	始業式	とんぼのめがね	4	つき	2	ボンポコタヌキ	1
	お月見	アイアイ	4	運動会のうた	2	虫の声	
	敬老の日	大きなくりの木の下で	4	七つの子	2	うさぎ	
		こおろぎ	3	証城寺の狸囃子	1	くだもの列車	
10月		小さい秋みつけた	4	菊の花	3	赤とんぼ	1
	運動会	どんぐりころころ	3	おなかのへるうた	3	くもさん	
		まつぼっくり	3	ゆうやけこやけ	2	かまきりじいさん	
	遠足	やきいもグーチーパー	3	きのこ	1	風さんだって	
11月		森のくまさん	3	動物園にいこう	1		
	文化の日	たきび	4	そうだったらいいのにな	2	おちば	
	七五三	やぎさんゆうびん	3	もみじ	2	朝一番早いのは	
	いもほり	まっかな秋	3	こぎつね	1	七五三	
12月		いもほりのうた	2	でぶいもちゃんちびいもちゃん	1	はたけのポルカ	
	クリスマス	あわてんぼうのサンタクロース	4	サンタクロース	2	サンタがまちにやってくる	
	お餅つき会	ジングルベル	4	北の国から	1	うさぎ野原のクリスマス	
1月	お正月	お正月	4	コンコンクシヤンのうた	3	たこのうた	1
	始業式	雪のペンキ屋さん	4	たきび	3	雪ってながぐつすきだって	
		雪	4	雪のこぼりず	2		
2月		豆まき	4	うぐいす		さよならさよなら	
	節分	北風小僧の寒太郎	2	ともだちはいいもんだ			
		スキー		友達になるために			
3月	ひなまつり	うれしいひなまつり	4	かわいいかくれんぼ	3	さよならほくたちのようちえん	
	卒園式	思い出のアルバム	4	はじめの一步	1	ドキドキドン一年生	
		一年生になったら	4	ありがとうさようなら	1	友達讃歌	

Ⅲ. 対象曲と研究方法

1. 使用テキストと対象曲

採択園の多かった「バイエル教則本」を基に、園生活でよく歌われる子どもの歌、季節の歌から9曲を照合させる。対象曲は、「ぞうさん」「かたつむり」「思い出のアルバム」「やぎさんゆうびん」「めだかのがっこう」「やきいもグーチャーパー」「あめふりくまのこ」「あわてんぼうのサンタクロース」「犬のおまわりさん」。使用楽譜は簡易伴奏や編曲版は避け、可能な限り原曲を用いた。

2. 方法と手順

〔表2〕は、対象曲について、拍子、調性、歌唱の音域、作詞者、作曲者、曲のキーワードを一覧したものである。

各曲について、担当者を決めて、以下の項目に

分けて観察し、指導計画案を作成した。

- (1) 曲の紹介：その曲が作られた時代背景や創作課程、歌詞の内容、作詞家や作曲家の意図を調べ、その曲に対するイメージを喚起する。
- (2) 曲調：テンポやダイナミクス、スラーやスタッカート、リズムなどを観察して、曲の性格を把握する。
- (3) ピアノ伴奏：「右手メロディ+左手伴奏パターン」「両手伴奏パターン」「混合型パターン」に分類し、特徴的なパッセージやテクニクを要する箇所、ダイナミクス、前奏や間奏、後奏の有無などに留意する。技術的にはバイエルの何番の練習が有効であるかを考察する。
- (4) 指導のポイント：以上の観察結果を踏まえて、指導ポイントを押さえる。また、その他の表現活動への展開を試みる。

〔表2〕対象曲一覧表

	曲名	速度	拍子	調性	音域	作詞者	作曲者	キーワード
1	ぞうさん	♩ = 84	3/4	F	c1-d2	まどみちお	團伊玖磨	動物
2	かたつむり	♩ = 92	2/4	D	d1-d2	文部省唱歌		虫、季節
3	思い出のアルバム	Andante	8/6	C	c1-d2	増子とし	本多鉄磨	行事
4	やぎさんゆうびん	♩ = 120 かわいらしく	2/4	F	c1-d2	まどみちお	團伊玖磨	動物
5	めだかの学校	♩ = 108 明るく、げんきに、美しく	4/4	D	d1-d2	茶木 滋	中田喜直	魚、自然
6	やきいもグーチャーパー	♩ = 104 ぐらい たのしく	4/4	C	c1-d2	阪田寛夫	山本直純	季節、野菜
7	あめふりくまのこ	♩ = 96 やさしく話しかけるように	2/4	D	h-c2	鶴見正夫	湯山 昭	動物、自然
8	あわてんぼうのサンタクロース	♩ = 126 ぐらい	4/4	F	c1-d2	吉岡 浩	小林亜星	行事
9	犬のおまわりさん	♩ = 104 ぐらい たのしく	4/4	D	h-c2	佐藤義美	大中 恩	動物

Ⅳ. 指導計画案

1. 「ぞうさん」

(1) 曲の紹介

1952年、佐藤義美編「日本童謡絵文庫7巻」(あかね書房)に掲載されたまどみちおの詩に團伊玖磨が作曲し、同年12月にNHKラジオ「うたのおばさん」で発表された。まどみちおによる童謡はこの他にも「やぎさんゆうびん」や「一年

生になったら」「ふしぎなポケット」など数多い。

(2) 曲調

象の動きのようにゆったりとした、温かみのある曲である。大らかで温かな曲想は、子どもにとって安心感を与えてくれる。原曲での前奏は大変美しく、一度耳にしたら忘れがたい旋律となっている。

(3) ピアノ伴奏

右手メロディ+左手伴奏パターンへの長調である。バイエルの中でへ長調が出てくるのは後半の

85番と遅い。指導者は弾き歌いの前段階として、へ長調について調号や雰囲気を教えておきたい。

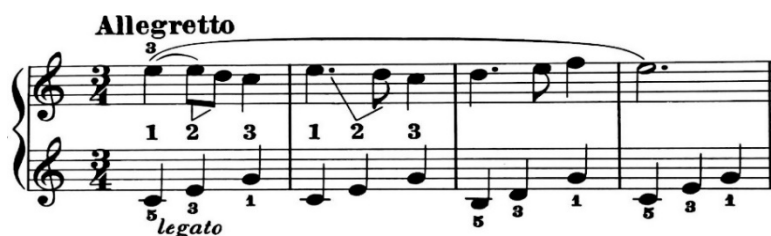
「ぞうさん」のメロディは付点4分音符を特徴としている〔譜例1〕。同じリズムが出てくるバイエル48番を用いて、左右のリズムのズレを意

識させる〔譜例2〕。右手は常にスラーで歌の呼吸に合わせて演奏する。また、左手の重音奏は64番の最後の3小節に出てくるが、同時に音が鳴らせるように気をつける〔譜例3〕。

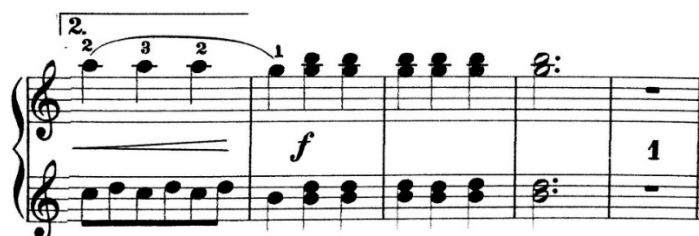
〔譜例1〕 ぞうさん² (mm.5-8)



〔譜例2〕 バイエル48番³ (mm.1-4)



〔譜例3〕 バイエル64番⁴ (mm.24-27)



(4) 指導のポイント

「ぞうさん」は問いかけと応答の詩である。保育者は母子の関係を子どもたちにイメージさせ、歌唱に生かせるよう指導したい。例えば、「ぞうさん」を他の動物に置き換えて、問いを保育者が、応答を子ども達に歌わせることも、表現を引き出す活動に繋がる。他にも母親象や子象になって歌に合わせたリトミック運動や、音楽を聴いて感じたことを絵で表現することなどが考えられる。また言葉や動きの理解が難しい乳児には、保育者が抱っこしたまま歌に合わせて優しく揺らしたり、

象のパペットを使用するなど工夫できる。

付点4分音符によるリズムや重音を学習するバイエル64番程度で併用できるだろう。(田中麻衣)

2. かたつむり

(1) 曲の紹介

わらべうたを基礎として作られたと言われているが、作詞・作曲者不明である。1911年「尋常小学校唱歌(一)」に掲載される。「でんでん」とは、子どもたちが、この虫に貝の背から「出よ出

よ」と呼びかけた言葉が詛ったものと考えられている。

(2) 曲調

全曲 12 小節から成るが、前半 4 小節と中間 4 小節は同じリズムで作られている。付点のリズムと 8 分音符のリズムが交互に配置され、躍動感のある明るく楽しい雰囲気を感じさせる。

(3) ピアノ伴奏

作曲者不詳のため、伴奏型には様々な編曲が実施されている。ここで用いた楽譜は右手メロディ + 左手伴奏パターンを持ち、バイエルの特徴と同様である。付点のリズムと 8 分音符のリズムが交

互に現れており、リズムの違いを学ぶ教材としても適している〔譜例 4〕。

二長調という調性は、子どもの歌に多く見られる調性であるが、バイエルでの二長調の練習曲は 75 番、80 番の 2 曲のみである。75 番では左手で和音を演奏することはせず、80 番では 1 小節目から 8 小節目まで常に左手の 1 拍目が二音で固定され、中間部ではト長調へ転調している。このようにバイエルには二長調の主要三和音の学習に適する楽曲がないので、他の教材も併用する必要があるだろう。

〔譜例 4〕かたつむり⁵ (mm.1-8)

♩ = 92
mf 5

文 部 省 唱 歌

(4) 指導のポイント

かたつむりのゆっくりと動きが途切れることなく移動する様子や、目や触覚に触れると驚いたように縮こまり、暫くすると伸ばしてくる様子など、子どもたちに様々な動きを歌に合わせて自由につけさせると、子どもの表現意欲を高めることに繋がる。

また、右手をチョキにし、その甲の上にグーにした左手を乗せてかたつむりを作り歌に合わせて動かすなど手あそびの要素を取り入れながら歌うと、また違った楽しみ方もできるだろう。

演奏技術の面においては、左手が 8 分音符のみで構成されているので、右手の付点と 8 分音符の

組み合わせを左手と合わせることは、それほど困難ではない。一方で、この曲の調性は二長調であることから、バイエル 75 番や 80 番を併用するのが望ましい。(鹿戸一範)

3. 「思い出のアルバム」

(1) 曲の紹介

1957 年に作詞者の増子としと作曲者の本多鉄磨の話し合いによって作られ、1961 年「幼児のためのリズムカルプレー」(フレーベル館) のリズム遊びの 1 曲として発表される。春夏秋冬や行事を取り入れた歌詞が 7 番まであり、3 月の卒園式で歌われる定番曲である。

増子としと本多鉄磨がそれぞれ異なる宗教観を持っていたため、冬の歌詞は2種類ある。宗教は違っても歌詞を選べるよう配慮されている。

(2) 曲調

子どもの歌では数少ない8分の6拍子の曲であ

る〔譜例5〕。アンダンテの緩やかなテンポに乗り、園生活の思い出として、春夏秋冬や行事の描写が織り込まれて歌われる。クレッシェンド、デイミニエンドを歌詞の内容に合わせて効果的に使いたい。

〔譜例5〕思い出のアルバム⁶ (mm.1-4)



(3) ピアノ伴奏

右手メロディ+左手伴奏型である。バイエル教則本で8分の6拍子が出てくるのは52番からである。付点4分音符を1拍にとるように歌うと、旋律の流れが美しく感じられる。8分の6拍子の練習はバイエルの52番、左手の伴奏型はバイエ

ル66番で学習できるが、2曲とも右手をレガートで美しく弾く練習にも繋がる。また、バイエル90番は、「思い出のアルバム」の中間部〔譜例6〕にあるメロディを重音で弾く奏法の練習に役立つ〔譜例7〕。

〔譜例6〕思い出のアルバム⁷ (mm.13-16)



〔譜例7〕バイエル90番⁸ (mm.1-2)



(4) 指導のポイント

問いかけを保育者、応答を子どもたちと分担すると、子どもたちは当時の出来事を思い出し、情感を込めて歌えるだろう。楽しかった園生活を振り返りながら、イメージを膨らませ、より生き生

きと表現できるのではないか。

ストーリー性のある歌詞なので、順を追って物語風の紙芝居にするのも、子どもの想像力を引き出す方法である。また、導入時に園生活での思い出を発表しあうことも、表現活動を育む上で効果

的だ。

学生へのピアノ指導に当たっては、8分の6拍子と重音奏を学習した、バイエル90番以降が適している。(田中麻衣)

4. 「やぎさんゆうびん」

(1) 曲の紹介

1952年、NHKラジオ「うたのおばさん」で放送された。「ぞうさん」と同様、まどみちおと團伊玖磨のコンビによる作品。

(2) 曲調

動物園や絵本の中でもお馴染みの動物が主人公

なので、白ヤギさんと黒ヤギさんのユーモラスな表情がイメージし易い。前奏をよく傾き、明るく語るように歌う。

(3) ピアノ伴奏

右手メロディ+左手伴奏パターンだが、スタッカートやテヌートに注意して表情豊かに演奏したい。前奏は物語を始める重要な部分なので、スラー、スタッカート、テヌートや異なる左右のリズムを意識して練習する〔譜例8〕。スラーの奏法はバイエル53番、54番〔譜例9〕、57番で学習するが、その際、腕の使い方も指導する。

〔譜例8〕 やぎさんゆうびん⁹ (mm. 1-12)

〔譜例9〕 バイエル 54 番¹⁰ (mm. 5-8)

(4) 指導のポイント

動物に対する愛情や手紙を書くことへの興味づけを図る。音域が高くなる後半は、歌、ピアノ伴奏共にクレッシェンドしながら伸びやかに歌わせたい。1番の歌詞と2番の歌詞を分担して歌わせ、お互いに聴き合うことも経験させる。

構成が単純で短い曲なので、合奏に適している。歌唱部分(9小節以降)のメロディを鍵盤ハーモニカで演奏し、打楽器は9小節から12小節の左手のリズムを繰り返す。年次が低くても挑戦できるだろう。

前述したように、前奏はオクターブ奏も含めて

練習しなければならない要素が幾つかあるが、歌唱の部分の伴奏は易しい。スラーと重音奏の学習をしたバイエル 69 番程度が妥当である。(辻浩美)

原詩は「めだかの学校は川の中 そっとのぞいてみてごらん みんなでお遊戯しているよ」の3行詩だが、中田喜直は作曲の際に「そっとのぞいてみてごらん」の部分で2度繰り返した。1回だけでは小さくまとまりすぎてしまうが、2回にすることで優しく語りかけるような効果を生んでいる。

5. めだかの学校

(1) 曲の紹介

作詞者・茶木滋の息子が、小田原市の郊外にある小川でめだかの群れを発見し、「ここはめだかの学校」と言ったことをヒントにこの曲が生まれたといわれている。現在、その場所とされる、小田原市にある荻窪用水の岸に碑が建てられている。

(3) ピアノ伴奏

2小節からなる前奏では、小川の流れや水面に反射した光がきらめく情景が表現されている。両手伴奏型で書かれ、前奏と同じ音型の上に、3小節目から歌が静かに入る〔譜例 10〕。

(2) 曲調

〔譜例 10〕 めだかの学校¹¹

明るく、げんきに、美しく ♩=108 *mp*

1. めだかのがっこうは
2. めだかのがっこうは
3. めだかのがっこうは

mp (2, 3番は *mf*) *mp* (バダルを充分使ってやわらかく)

注 小音符は三番の時に (ピアノ伴奏も)

かわのなち そっとのぞいてみてごらん そっとのぞいて
めだか たち それがせいとかせんせいか だれがせいとか
うれし そう だみ ずにながれて つーいつい だみ ずにながれて

mf

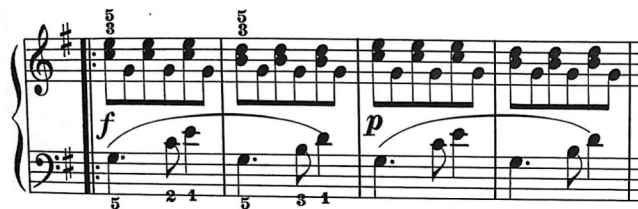
みてごらん みんなでおゆうぎ しているよ
せんせいか みんなでげんきに あそんでる
つーいつい みんながそろって つーいつい

mp *rit.*

前奏の右手の音型は、バイエル 72 番に同様の音型があるが〔譜例 11〕、「めだかの学校」の前

奏部分ではより音楽的で柔らかいタッチで弾きたい。

〔譜例 11〕 バイエル 72 番¹² (mm. 9-12)



7 小節目「そっとのぞいてみてごらん」を 2 度繰り返す部分では、右手での *mp* での旋律の演奏に続き、2 回目は *pp* のアルペジオの中でエコーのように歌えるよう、和音の響きと余韻を意識しながら演奏する。強弱の対比やハーモニーの美しさを感じながら表情豊かに演奏したい。このように 2 小節目単位での強弱記号の変化は、バイエル 57 番、72 番、76 番、100 番で学習できる。

また、「めだかの学校」のピアノ伴奏は、ペダルの使用がポイントとなる。演奏者は自身の音をよく聞き、音が濁らないようペダルをコントロールし、柔らかなタッチで美しい響きを作らなければならない。楽曲の美しさを引き出す演奏技術と曲想に応じた表情豊かな演奏が求められる。

(4) 指導のポイント

めだかがどんな所に棲んでいるか子どもたちと考え、小川で自由に泳ぐめだかの情景が思い浮かぶよう、またその様子をのびのびと豊かに表現する楽しさを味わえるよう導く。こうした働きかけによって、小さな生き物に対する愛情が育まれる。

また、「そっとのぞいてみてごらん」のところでは覗いているしぐさをしながら歌うなど、歌詞に合わせた簡単な動きをつけ表現させる。1 回目は *mf*、2 回目は *pp* というように、2 度繰り返される同じフレーズを、「話しかけるように」「ささやくように」などのイメージをもたせ、変化をつけて表現させる。

学生へのピアノ指導の時期としては、バイエル終了が望ましい。これは、二長調という調性や、重音の奏法、*pp* から *mf* までの強弱の幅、アル

ペジオ奏法など、求められる技術の難度が高い上、ペダルの使用も必要とされるからである。(鹿戸一範)

6. 「やきいもグーチーパー」

(1) 曲の紹介

1969 年、NHK テレビ「おかあさんといっしょ」のために、作詞・阪田寛夫と作曲・山本直純によって作られた。阪田は「足でジャンケンをして遊ぶ歌です。両足でグーチーパーの形をしながら歌って、最後に相手とジャンケンをしましょう」¹³と述べている。寒くなるとおやつに登場する、子どもたちの大好きな「やきいも」を題材にした手遊び歌で、楽しみながら秋や野菜に興味を持つきっかけになる。

(2) 曲調

I、IV、V 度の基本的な和音から作曲され、転調もなく曲も短い。前奏から最後までスキップのリズムによる躍動感を持って、歌詞の持つ内容を表現している。子どもたちは詞の持つ楽しさをユーモラスなリズムに乗せ、軽やかに歌いたい。

(3) ピアノ伴奏

前奏はこの曲の特徴となるスキップのリズムによるアフタクトから始まる。右手はオクターブで演奏が求められているため、手の小さい場合は難しい。また、終始スキップのリズムを歯切れ良く軽快に弾く技術が必要とされる。

〔譜例 12〕 やきいもグーチーパー¹⁴ (mm.1-3)



バイエルでは、このリズムを 88 番〔譜例 13〕、
89 番〔譜例 14〕、98 番で学習する。また 89 番、

98 番では、アウトタクトの学習も同時に行うこ
とができる。

〔譜例 13〕 バイエル 88 番¹⁵ (mm.1-4)



〔譜例 14〕 バイエル 89 番¹⁶ (mm.1-6)



「やきいもグーチーパー」はハ長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴ度の主要三和音による3つのカデンツで構成されている。左手は跳躍が多いので、演奏が困難な場合には、バイエルのハ長調で学習した種々の伴奏型に編曲することが可能である。

(4) 指導のポイント

サツマイモの収穫時期や、いもほり遠足の時期に相応しい歌。この曲によってジャンケンの勝敗やあいこの仕方などを覚えることができ、遊びのルールも身につくだろう。歌に合わせてグー・チョキ・パーと手を出す「手遊び歌」として、さらに「足ジャンケン」へと発展させて楽しませる。

遊び歌は子どもたちにとって、楽しくてお気に入りの曲だ。ただ歌うだけでなく音楽に合わせて体を動かす活動を通して、楽曲の気分を感じ取り、

音楽に親しみを持つよう働きかけたい。

学生への指導は、バイエル 90 番終了程度の時期が望ましい。ハ長調の主要三和音が押さえられ、スキップのリズム奏法が身に付いてさえいれば、スムーズに弾き歌いに移せる楽曲だと考えられる。(鹿戸一範)

7. 「あめふりくまの乙」

(1) 曲の紹介

1962 年、NHK テレビ「うたのえほん」の委嘱を受け、6月の月の歌として放送された。作詞家・鶴見正夫は小学校1年生の息子が庭にしゃがんで雨の流れをのぞきこんでいる姿に着想を得たという¹⁷。園では6月の定番曲として歌われ、実習課題になることも多い。簡易伴奏は多種出版さ

れているが、子どもの歌に特別な思いで作曲してきた湯山昭による原曲で演奏したい。

(2) 曲想

雨の日に、いたずら好きの子熊が小川を覗いている表情を、やさしく話しかけるように歌う曲。ユーモラスな子熊を想起させる、付点リズムがこの曲の特徴なので、明るく軽やかに歌いたい。情景がイメージできるように、歌詞をはっきりと発音すること。

(3) ピアノ伴奏

右手メロディ+左手伴奏パターンだが、右手は

重奏の箇所もある。付点リズムはバイエル 88 番(譜例 13)、三連符は 74 番で学習するが、右手の重奏や音域の広い左手の伴奏型はバイエルにはないスタイルである。*dolce* の指示のある前奏と間奏、*piu f* — *mp* の対比を持つ後奏は、この曲の重要な要素なので、のどかな情景をイメージさせて、しっとりと歌い上げたい。また、ペダルの指示は有るが、まずペダル無しで正確に弾けるようになってから、ペダルをつけるよう指導する。その際、音が濁らないよう、ペダルを踏むタイミングや踏み方も教える〔譜例 15〕。

〔譜例 15〕 あめふりくまのこ¹⁸ (mm. 1-10)

1. お や ま に ら あ ー め が
 2. い た ず ら く ま の こ
 3. な ん に も い か
 4. そ れ で も ど
 ☆5. な か な か や こ

(4) 指導のポイント

歌詞 1 番から 5 番まで物語調に話が進むので、各場面のイメージを心の中に描きながら演奏する。歌詞に合わせて子熊の様々な表情を、顔つきを変えたり、ジェスチャーをつけて表現させると、この曲への好奇心が膨らむだろう。幼児と保育者が一緒に子熊の可愛い仕草を描き、紙芝居を作成するのも効果的だ。

この曲の弾き歌いは、ピアノに慣れてきたバイエル 100 番程度で挑戦したい。(辻浩美)

8. 「あわてんぼうのサンタクロース」

(1) 曲の紹介

1971 年、NHK 教育テレビ「なかよしリズム」で発表された吉岡治作詞・小林亜星作曲によるクリスマスの定番曲として広く親しまれている。「おしくらまんじゅう」もこのコンビが手掛けた童謡のうちの一曲。

(2) 曲調

2 拍子の軽快なリズムに乗ってサンタクロースが楽しそうにやってくる様子を表している。擬音オノマトペ(リンリンリン、ドンドンドン、チャ

チャチャ、シャランラン) が歌詞の中に多く取り入れられ、歌いながら身体も自然に動いてくるような陽気な曲に仕上がっている。前奏のメロデ

ィはフレーズを意識してきれいに歌い上げ、3小節目からは一転してテンポを上げ、軽快なスタッカートにより幕が開く〔譜例16〕。

〔譜例16〕あわてんぼうのサンタクロース¹⁹ (mm.1-4)



(3) ピアノ伴奏

右手は旋律を取らずに、全曲を通して両手伴奏形態である。この曲のポイントとなる前奏では、テンポの変化やリタルダンド、スタッカートに気

を付けて演奏したい。この軽快なスタッカート奏には、バイエル62番の学習が適している〔譜例17〕。手首の力を抜き、響きのある音色を作りたい。

〔譜例17〕バイエル62番²⁰ (mm.1-4)



歌唱部では、左手は拍をしっかり刻むように押さえ、右手はスタッカート気味に演奏するよう指導する。左右のバランスを整えて弾くことは難しいが、こうしたリズム感を身につけると歌い易くなる。

この曲は、明るいイメージを掻き立てるへ長調による、子どもにとって歌いやすい音域で書かれている。実際、子どもの歌はへ長調が多い。バイエルでへ長調が初出するのは後半の85番だが、へ長調の調号、音階、運指などを学ぶためにバイエル94番を学習するとよいだろう。

(4) 指導のポイント

子どもが「いそいでリンリンリン」「えんとつのぞいて落ちちた」「あいたたドンドンドン」「たのしくちゃちゃちゃ」など歌詞に沿った動き

を考えることは、自分のイメージを動きや言葉で表現することに繋がる。オノマトペは状況のもたらず体験の味わいを疑似的に音声表現に置き換えたものともいえるが、この曲は軽快なリズムと相俟ってオノマトペの持つ効果で子ども達をイメージや動き、身体感覚といった世界へと導き、その体験的味わいを経験させる。したがって擬音語を軽快にテンポよく歌わせることが大切である。

簡単な楽器による合奏編曲の挑戦や身近にある素材で楽器を作ることも可能だ。例えば、ペットボトルにお米を入れてマラカスを作るなど、年次に関係なく楽しめる。また音楽と絵画のコラボレーションもできる。歌詞に沿った絵を描くことで、曲のイメージを豊かにし、表現の幅が広がるだろう。

学生にとって、原曲伴奏による弾き歌いは技術的に難しい。しかし、作曲者が詩の世界に最適な音楽表現として作曲した原曲を弾くことによって、作品全体の世界観が表現される構成となっている点を大切にしたい。両手伴奏形態はバイエルでの学習経験がないため、原曲での弾き歌いはバイエル終了程度が望ましい。(田中麻衣)

9.「犬のおまわりさん」

(1) 曲の紹介

1960年「チャイルドブック」(チャイルド本社)10月号で発表、迷路あそびの歌として掲載された。1961年10月、NHKテレビ「うたのほん」で放映され反響を呼び、後続番組「おかあさんといっしょ」で大人気になる。

(2) 曲調

動物が主人公、迷子、忘れ物といった園児の身近に起こるテーマによる、8ビートに乗った快活

な曲。言葉とメロディの1拍目に付けられたアクセントや、*p* から *mf* までのダイナミクス、クレッシェンドやデクレッシェンドは、歌詞の内容に合わせて効果的に使われている。

(3) ピアノ伴奏

混合型パターンだが、前打音や16分音符による速いパッセージ、スラーやスタッカート奏法など、バイエル終了程度の技術が必要である。伴奏型は場面に応じて変化するので、それに合わせた表情も欲しい。

ユニゾンによる前奏はこれから始まる話への期待感を促す効果を生むため、左右揃えて、はっきりと小気味よく弾く〔譜例18〕。バイエルではニ長調が初出する75番の予行練習「ニ調長音階」が役立つ。前打音はバイエル80番、100番〔譜例19〕で学習するが、この曲では左手奏のため難しい。歌が自然に入れるように、4小節目のアウトタクトは意識して演奏する。

〔譜例18〕 犬のおまわりさん²¹ (mm.1-8)

〔譜例19〕 バイエル100番²² (mm.9-12)

(4) 指導のポイント

幼児はこの曲が大好きなので、元気いっぱい、声を張り上げて歌う傾向がある。保育者は正しい音程とダイナミクスを意識して歌わせるよう配慮すること。一方、ピアノ伴奏は軽快さと場面に応じた表情が求められる。幼児に音楽の美しさを感じさせる意味でも、原曲による伴奏で演奏したい。

ストーリー性のある曲なので、歌詞に合わせてジェスチャーを付けたり、役割を分担して歌って楽しむことができる。また、紙芝居を作って、曲のイメージを抱かせるのも効果的だ。次のステップとして、鍵盤ハーモニカと簡易な打楽器による合奏や音楽劇へ発展させる。(辻浩美)

V. 今後の指導に向けて

保育者養成校におけるピアノ指導教員は、限られた時間の中で基礎的なピアノ演奏技術を指導しながら、子どもたちに豊かな感性や表現力を育てることができる保育者を育てなければならない。実際、保育現場では弾き歌いが音楽活動の中心となるが、時間的な問題もあり、ピアノ実技に特化する養成校も少なくない。未だ広く使用されている「バイエル教則本」を単調でつまらない練習曲という負のレッテルで終わることなく、バイエルと弾き歌い曲を並行して学ぶことで、効率的な指導ができるのではないかという仮説を基に、本論文では指導案を作成した。

保育現場で歌われる機会の多い9曲について、各担当者が自らのスキルと経験に基づき考察した結果、多角的なアプローチが可能であることが確認できた。單元ごとのバイエルの学習は、弾き歌い曲のピアノ伴奏に有効に活用できるだけでなく、両者を適宜、併用することによって、学生たちの音楽に対する意欲を高めることにも繋がるだろう。また、その曲の情報を把握した上で指導することによって、子どもたちが曲に対するイメージを膨らませることができる。

更に次のステップとして、他の表現活動へと発展させることも可能だ。例えば、保育者と幼児が

共同した紙芝居作りや、音楽劇を実践することは、図画工作や体育の表現活動ともタイアップする。また、歌詞の意味を理解し、作詞者の意図を知ることが言語への興味を促す。指導者の工夫次第で、音楽に留まらず、様々な分野で表現活動の幅が広がるだろう。

だがその前提として、保育者自身が自信を持って、生き生きと音楽に取り組む姿勢を持つことを忘れてはならない。園生活の中で、幼児にとって保育者は最も身近で信頼できる存在である。曲想がつけられた美しい音楽の調べは、幼児の感性を豊かにし、音楽を通して自分の思いを表現したいという気持ちを沸かせるのではないか。

今回の研究ではバイエルに限定して考察したが、両手伴奏型を始め、バイエルの練習曲では賅えないケースも散見した。今後の課題として、バイエル以外の練習曲も比較検討し、本研究の指導案(IV章)を活かした、多くの弾き歌い曲と併用できるテキスト作成を目指したい。

引用文献

1. 辻浩美・鹿戸一範・田中麻衣 2017「ピアノ初学者のための使用テキストの実態と傾向—全国の幼稚園教諭・保育士養成校のシラバスに基づいて—」『小池学園研究紀要』第15号、p.35
2. 全国大学音楽教育学会編 2013『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌—唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社、p.83
3. 全音楽譜出版部編 1955『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社、p.37
4. 同上、p.45
5. 小林美実編 1975『こどものうた200』チャイルド本社、p.108
6. 全国大学音楽教育学会編 2013『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌—唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社、p.110
7. 同上、p.111
8. 全音楽譜出版部編 1955『標準バイエルピアノ

- ノ教則本』全音楽譜出版社、p.61
9. 全国大学音楽教育学会編 2013『明日へ歌い
継ぐ日本の子どもの歌—唱歌童謡 140年の歩
み』音楽之友社、p.84
 10. 全音楽譜出版部編 1955『標準バイエルピア
ノ教則本』全音楽譜出版社、p.54
 11. 全国大学音楽教育学会編 2013『明日へ歌い
継ぐ日本の子どもの歌—唱歌童謡 140年の歩
み』音楽之友社、p.74
 12. 全音楽譜出版部編 1955『標準バイエルピア
ノ教則本』全音楽譜出版社、p.49
 - 13, 14. 全国大学音楽教育学会編 2013『明日へ
歌い継ぐ日本の子どもの歌—唱歌童謡 140年
の歩み』音楽之友社、p.164
 - 15, 16. 全音楽譜出版部編 1955『標準バイエル
ピアノ教則本』全音楽譜出版社、p.60
 - 17, 18. 全国大学音楽教育学会編 2013『明日へ
歌い継ぐ日本の子どもの歌—唱歌童謡 140年
の歩み』音楽之友社、p.122
 19. 同上、p.168
 20. 全音楽譜出版部編 1955『標準バイエルピア
ノ教則本』全音楽譜出版社、p.43
 21. 全国大学音楽教育学会編 2013『明日へ歌い
継ぐ日本の子どもの歌—唱歌童謡 140年の歩
み』音楽之友社、p.102
 22. 全音楽譜出版部編 1955『標準バイエルピア
ノ教則本』全音楽譜出版社、p.67

参考文献

- 全音楽譜出版社出版部編 1955『標準バイエルピ
アノ教則本』全音楽譜出版社
- 森田百合子・山本金雄・山本敬・秋山衛 2000
『幼児の音楽教育 表現◆音楽』教育芸術社
- 石井恵子・大見由香・鎌形由紀乃・竹内アンナ
2010『幼児のための音楽教育』教育芸術社
- 全国大学音楽教育学会編 2013『明日へ歌い継ぐ
日本の子どもの歌—唱歌童謡 140年の歩み』
音楽之友社
- 辻浩美・鹿戸一範・田中麻衣 2017「ピアノ初学
者のための使用テキストの実態と傾向—全国

の幼稚園教諭・保育士養成校のシラバスに基
づいて—』『小池学園研究紀要』第15号

辻 浩美 (埼玉東萌短期大学非常勤講師)
田中麻衣 (埼玉東萌短期大学非常勤講師)
鹿戸一範 (秋草学園短期大学専任講師)